

C O N T E N T	
ORD講演会「京都花街に学ぶ経営学」	1~2
究極の法人融資見直しセミナー	3
製品開発日帰り研修	4~6
技術促進委員会「一泊研修」レポート	7~8
事務局だより	8

編集：企画広報部会 事務局：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東1丁目10番25号(奥野製薬工業(株) 企画開発部内)
TEL 06-6961-0886 FAX 06-6963-0740 E-mail info@ord.gr.jp URL http://www.ord.gr.jp

ORD 講演会

「京都花街に学ぶ経営学」 — 伝統産業の人材育成と事業システム —

京都女子大学 現代経営学部教授 西尾久美子先生



平成28年9月15日、大阪を離れて、京都での初めての講演会を開催いたしました。

京都女子大学教授 西尾久美子先生による、組織行動論、経営組織論として、キャンパスプラザ京都にて、「京都花街に学ぶ経営学」と題して、ご講演を賜りました。

京都花街は、上七軒、祇園甲部、祇園東、先斗町、宮川町で構成され、「五花街」と呼ばれています。

花街の「一見さんお断り」は、格式を重んじ、排他的に感じられますが、これらにはそれなりの意味があります。それは、舞妓さんのキャリア形成と、顧客の質を保ち、リピーターを作り、わかる人にはわかる高付加価値の提供を行うための仕組みでした。

●舞妓さんのキャリア形成(育成)

- ・中学卒業後、舞妓としてデビューするまでの約1年間、置屋に住み込み修業。

舞妓の言葉、化粧、着付け、花街の習慣、立ち振る舞い、舞、三味線の習得。

- ・舞妓としてデビュー前、約1ヵ月間の実地研修を得て舞妓に。

舞妓から芸妓となる間に、おもてなしの技として、「目配り」「気配り」「心配り」、後輩指導及び座持ち。

- ・舞妓になって、4,5年後(20歳頃)に芸妓一人前として認められ、座持ちの良さが求められる。後輩の育成責任者の役割が求められる。
- ・年季明け(通算7年位)になると、置屋からの独立か、引退の選択

続ける場合の専門技能の選択

舞以外の芸事を一生深めることとなります。即ち、わかる人にはわかる高付加価値の提供。



●顧客の質

- ・お茶屋さんのお母さんは、プロデューサーとして、芸舞妓さんと共に、チームで顧客の要望や好み、場の変化に柔軟に対応した「おもてなし」を行う為に、新規客では、満足な「おもてなし」の対応ができない。
- ・「お財布はいりません。」お茶屋さんの立て替え支払いによる信用取引による掛け売りの発生。
- ・紹介者による身元確実な新規先の確保。

結果として、

1. 洗礼された舞妓さんの継続的育成と会員制度による収益の安定により、よりよいサービス創造の探索基盤
2. 紹介顧客重視による、新規顧客開拓コストの低減および一定レベルの顧客を呼び込む事で、顧客のレベル悪化を防ぐ事が出来ます。
3. 掛け売り代金の未取りリスク低減により、提供サービスの質を利害関係者の連携で維持向上が行えます。
4. 身元確実な新規先の確保により、良識あるマナー客の品質、維持、向上が、会員制の「おもてなし」が可能としている。
5. わかる顧客の創造により、価格競争に巻き込まれる事なく、顧客満足度の向上に注力ができる。

花街の「一見さんお断り」は、敷居が高く、格式を重んじ、排他的に感じられますが、お馴染みさんの紹介により利用する事が可能となり、価格的にも



北新地とそん色がないようです。

講演会の後、西尾久美子先生をはじめ、そして先斗町からお茶屋のお母さん、芸妓さんにもご参加頂き、講演会内容を再確認出来た、楽しく盛り上がった懇親会となりました。

今回の講演会にご尽力賜りました皆様方には、深く感謝しお礼を申し上げます。

(松浦 勲/記)

付 録

今回の京都講演に先立ち今春にORDで見学を計画していたが実現しなかった、「京都鉄道博物館」見学に有志8名で行ってきました。

当日はお天気にも恵まれ博物館周辺の梅小路公園は気持ち良い木々に囲まれていました。

「鉄道博物館」は開館当時の大混雑は無くゆっくり見学できる程度のひとりの入りでした。

博物館は、本館と蒸気機関車館に分かれており、本館に展示されている車両は、どれも幼い時からの記憶にある実物が殆どで、最近のものではトワイライトエクスプレスの機関車や食堂車等の実物展示もありました。中高年にとっては、本当に懐かしいものばかりでした。2階スペースには、昔の指定席発券機や貨物ヤードの紹介など鉄道の歴史が勉強できるスペースとなっていました。



蒸気機関車館では、動く姿は時間が合わず見れませんでした。実際に稼働できる機関車が実際に煙を吐いておりました。イベント時には本線も走行します。

講演前の慌しい時間もあっという間に時間が過ぎ、昔にタイムスリップした2時間でした。

(事務局/記)

ORDセミナー

『究極の法人融資見直しセミナー』

(株)しのぎ総研 代表取締役 篠崎 啓嗣(しのぎ ひろつぐ)氏

平成28年10月5日 ソニー生命大阪支社において、株式会社しのぎ総研代表取締役篠崎啓嗣氏による、「究極の法人融資見直しセミナー」を開催いたしました。



銀行を監査する立場にある金融庁は、バブル崩壊後ずっと、不良債権処理を優先させ新たな不良債権を発生させない為に、自己査定と言う格付けシステムを導入し、金融機関統一の一定の基準を作りました。これが一般的に「銀行は、雨降りには傘を貸さない。」と言われていることです。

これにより、技術・将来性・担保に依存しない融資ができる、銀行融資担当者の育成がおごなりの期間が約20年の長期に亘った事で、一般的な中小企業は、銀行の融資対応に対し多くの悩みを抱える事となった。

具体的な悩みとして、



1. 融資の申し込みから審査がOKになるまでの時間
2. 信用保証協会付融資での対応
3. 返済してもなかなか銀行融資残高が減らない
4. 担保提供しているのに、銀行の融資対応してくれない

5. 融資に対する抱き合わせ
6. 必要以上の金額の融資で、差額を強制的に預金させられる(歩積両建て)
7. 融資金利が高い
8. 融資申し込み時の反応のまずさ 等

銀行では、自己査定の内容は教えて頂けない。しかしこれがわかると、自社の銀行に対するポジションがわかり、メインバンクに対して主導権が握れ、自社で融資の可否を含めた総合的な判断が、わかるようになる。これらの効果は、①金利の引き下げ②保証協会の保証枠の温存③キャッシュフローの改善が図れ、自社有利の結果が得られやすくなります。



金融庁は、今年7月から来年6月の金融機関監査における、「金融行政方針」を公表しました。

主なポイントは、

- ・金融機関が担保にしていないかなど融資実態を調査
 - ・金融機関の顧客本位の業務運営を促進 等
- バブル崩壊以降の融資方針が身につけている、銀行員の考え方を、180度転換するのでも、
- ・銀行をはじめとする金融機関が、金融庁の考え方についていけるのか?
 - ・金融機関の人間が、技術、将来性を判断できるのか?

まだまだ問題点はありますが、銀行融資が大きく変わる分岐点にあるのではないのでしょうか?

(松浦 勲/記)

平成28(2016)年度第3回ORD製品開発委員会例会 “バスツアーによる日帰り研修”の報告_{RO}

●日 時：2016年9月21日(水)

●見学先：①極東開発工業(株)三木工場、兵庫県三木市別所町巴2

②理化学研究所、計算科学研究機構、神戸市中央区港島南町7-1-26



写真1. 極東開発工業の会議室

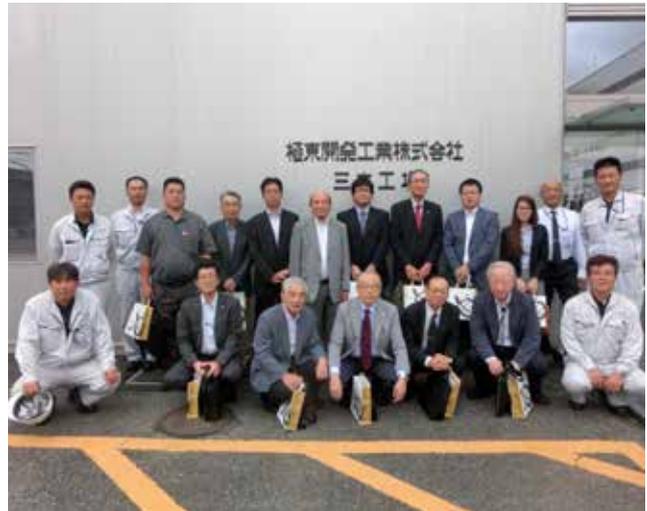


写真2. 三木工場正門における記念撮影

はじめに

製品開発委員会の第3回例会は、バスツアーによる日帰り研修会です。昨年と同じ頃に今回の同じ見学先を訪問する計画を立てていた。

ところが当日に台風が神戸に上陸したため、ギリギリ前日に見学が中止になった経緯がある。理研のスーパー計算機“京”は、一度は見ておきたい見学対象なので、懲りずに今年も同じ計画を続けることになった。

ところが偶然にも今年も見学当日近くになって台風が神戸に近づいてきた。またかと本当にヤキモキさせられたが、今年は見学日の前日に台風が神戸沖を通過してしまったので、間一髪で日帰り研修を実行出来た。今回の参加者は事務局長も含め14名であった。

今回の集合場所は、昨年と同じ大阪駅の仮設郵便局前で、参加者が時間をキッチリ守って集合したので、バスは予定通り朝の8時30分に大阪郵便局前を出発できた。天候は台風一過の後とも思えない曇り空で、何時雨が降っても不思議ではない天候であったが、気温は適当で極めて爽やかであった。

極東開発工業・三木工場の見学

三木工場の見学は、会議室におけるウェルカム説明会から始まりました。はじめに藤川製品開発委員長が見学をさせて頂くお礼を述べて(写真1)、続いて極東開発社員による会社および三木工場の概要説明があり、その後から工場見学が始まった。写真1の後列左端に座っておられるのが、三木工場・木津工場長です。

三木工場へは10時に到着して、11時30分にお別



写真3. 昼食、神戸市内の西村屋



れた。写真2が出発直前に撮った集合写真である。工場内は当然の如く写真撮影が許されなかったので、工場の内容については極東開発工業のホームページを参照されたい。

理研のスーパーコンピューター “京 (けい)”

途中、時間調整のため神戸空港を見物して、ポートピア島の理研研究所には計画通り午後2時に到着。二年越しに巡り合えるスーパーコンピューター“京”なので、皆さんの期待は高まるばかりであった。

“京”は総開発費1,120億円を投じ、2012年6月に完成、同年9月に共用開始、コンピューターの



写真4. 計算機“京”の見学室では、計算科学研究機構の職員が詳しく“京”について説明をしてくれ、質問にも丁寧に答えてくれた。

TOP500ランクで、2011年6月および2011年11月に1位になるが、完成直前の翌2012年6月には2位に、同年11月には3位に後退した。とに角、見たこともない異様さで圧倒されたが、写真5にその威容をお見せする。



写真5. スーパーコンピューター“京”の威容

圧倒的な存在感で大満足であったが、実は手を付けられない異次元の世界のものではなく、利用しなければ勿体ない身近なものであることを見学で知ったことが、大きな収穫であった。

理研のFOCUSスパコン

理研と富士通が共同してスーパーコンピューター“京”を開発して、計算科学研究機構がその運用に携わっている。理研の隣の計算科学センタービルの中に（公財）計算科学振興財団があり、ここがスーパーコンピューターの産業利用促進や支援に携わっている。

スーパーコンピューターの産業利用と言われても“京”の威容（異様？）に驚かされた我々は、利用に要するコストを想像すると、恐れ多くて近づく勇氣はなかった。ところが計算科学振興財団には、見学者向けの展示コーナー（写真6）があり、職員方が懇切丁寧に啓蒙に勉めておられた。理研には“京”コンピューターがあり、計算科学振興財団には産業界向けの“FOCUS スパコン”という小型のコンピューターがあることを知った。計算速度は“京”の1京回/秒に対して305兆回/秒だが、計算能力比で言うと35:1とのこと。このコンピューターは外部利用者専用である。そこで利用料金体系を聞いて安心しました。アカウント発行手数料10,000円で利用開始が可能。OSは広く普及しているLinux。製品開発委員会が見学を訪れた当日も、利用企業の社員の研修会（ワークショップ）が開かれていた。

言われれば当然のことであるが、コンピューターの計算は早いですが、コンピューターを動かすためには、目的にあったシミュレーション・プログラムを当事者が造らなければならない。

それに圧倒的に時間が掛るそうである。スキルを持った社員を養成しなければならないが、

FOCUS普及活動に寄与させるべく、計算科学振興財団は事例集も発行している。財団内には神戸シミュレーションスクールがある。関心のある方は、是非財団の普及促進グループ、
E-mail: fukyu@j-focus.or.jp,
TEL: 078-599-5024,
に連絡されたい。



写真6. 計算機“京”の見学室では、計算科学研究機構の職員が詳しく“京”について説明をしてくれ、質問にも丁寧に答えてくれた。



懇親会

神戸の理研からバスで出発点の大阪郵便局へ戻り、今回は大人しく梅田界隈の飲食店で懇親会を持った。長時間にわたる日帰り研修会であったので、懇親会の後は皆さん、大人しく直帰されたようであった。

菊池 清（記）/セン特殊光源（株）

技術促進委員会「一泊研修」レポート

●日時：2016年10月21日(金)～22日(土) ●場所：浜松ホトニクス(株)、スズキ歴史館、エアパーク(航空自衛隊浜松広報館)

今年の一泊研修は、秋空の中、総勢11名にて大阪駅前よりバスにて出発し、初日に浜松ホトニクス(株)豊岡製作所様にて光電子増倍管の製造を見学させていただき、舘山寺温泉にて宿泊、2日目にスズキ歴史館およびエアパーク(航空自衛隊浜松広報館)を見学し、帰阪いたしました。



浜松ホトニクス(株)様といえば、ご高承のとおり光電子増倍管では世界シェア80%を維持し、また、ノーベル賞獲得に貢献しましたカミオカンデに設置されていることで有名です。今回は特別のお計らいにより、その光電子増倍管の製造現場を見学させていただきました。

光電子増倍管の製造を見学させていただき、何より驚き、勉強になったのは、ガラス管の取り扱いで、本来ならば職人技に依存するところを巧みな治具を使い、見事に半自動化しておられました。今までORDでは様々なお会社を訪問させていただき、職人さんが本当に手作業で一品一品を生産している工房から完全に自動化されている無人工場まで見学させていただいてありますが、このようなレベルの工場は初めての体験でありました。昨今では職人のノウハウをどう継承するかが問題になっているようですが、既に浜松ホトニクス(株)様では見事にそれを解決されているように感じました。

また、基礎研究を本当に大切にしておられ、まさに研究開発型企業との感想を持ちました。やはり、世界から支持され続けられるには、基礎研究を地道に行い、最先端の製品を供給し続けなければならないのだと改めて認識しました。



見学後、宿泊予定の舘山寺温泉に向かいました。歴史は明治以降と比較的浅いのですが、舘山寺からは浜名湖を一望でき、大変風

光明媚な落ち着いた温泉街でした。少し早めに宿に着いたので、皆で裏山の舘山寺、愛宕神社周辺を散策し、適度に運動後、温泉を堪能後、おいしい食事に舌鼓を打ちました。



2日目は、午前中にスズキ(株)本社前にあるスズキ歴史館を見学しました。スズキ(株)様も元々は織機を源流とし、戦後、自動2輪および自動4輪の生産を始められました。我々にとってはとても懐かしいバイクや車が展示してあり、また、創業者である鈴木道雄氏が国家の行く末を案じ「やрмаいか」精神で、織機→自動2輪→自動4輪と開発していった歴史を感じることができました。





昼食は皆さんお待ちかねの浜松名物「うな重」に舌鼓を打ち、エアパーク（航空自衛隊浜松広報館）に向かいました。エアパークでは大きく3つの展示物があります。①航空自衛隊の任務と活動・研究開発・航空機のメカニズムの展示、②現在使われている航空機の模型やパイロットの携行品の展示、③歴代にわたって使用した実物の航空機の展示、となっており、マニアの方にとってはいくら時間があっても

も足りないような空間があります。小職も実物の航空機のコクピットに座らせていただき、満面の笑みで写真を撮っていただきました。

その後、幸い大きな渋滞に巻き込まれることなく、ほぼスケジュール通りに帰阪しました。なんとか天気も持ちこたえ、秋の東海地方を満喫する一泊研修となりました。

最後に、お忙しい中、浜松ホトニクス(株) 大石様、森田様をはじめご対応していただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶(記)/旭テック(株)



事務局よりお知らせ

会員企業展示会報告

会員企業様が出展され事務局が訪問できた展示会を報告させていただきます。

第4回スマートエネルギーWeek



2016.9.7～9
インテックス大阪で行われた「関西スマートエネルギーWeek」に(株)三社電機製作所様が出展されておられました。



第14回関西機械要素技術展

2016.10.5～7
インテックス大阪で行われた「関西機械要素技術展」に大阪油化工業(株)様と昭和電気(株)様が出展されておりました。

